

2013年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

- (1) 食・栄養を専門とする大学院生向け栄養教育の邦訳テキストの作成
- (2) 国際協力分野での健康・栄養に関心を持つ大学院生向けテキスト（草稿）の作成

■主任研究者 足立 己幸

■共同研究者 佐藤 都喜子

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

テーマ (1) について

栄養学を基礎に行動科学の理論と実践をリンクした新しい栄養教育論を説く コロンビア大学名誉教授 Isobel R. Contento の Nutrition Education : Linking Research, Theory, and Practice

について、監訳（足立己幸、衛藤久美、佐藤都喜子共監訳）を行うプロセスで、栄養教育の基本的な概念を理解し、関連するキーワードの抽出とその日本語訳を検討した。全監訳が終了し、かつキーワード一覧を付記することにした。現在編集中で、6月に出版予定である。

理論と実践をどのように近づけることができるかは、栄養教育だけでなく教育分野の基本課題である。とりわけ食行動は人間も食物も、環境も多様で、かつそれらの多様な組み合わせによる営みなので、難題であった。幸い、2人ともに国内外での国際協力実践事例を多く持ち合わせていることと、やや異なった方法論（足立は食生態学と健康教育学を中心に、佐藤は地理学とジェンダー論を中心にする）の複合的な検討により、内容を充実することができた。出版後に、本課題の評価を行う予定である。

テーマ (2) について

大学院における「国際栄養学特論」のシラバスにもとづいて、テーマ (1) の成果と課題を活用しつつ、内容の教材性の検討をする予定であったが、受講学生の国際栄養学特論へのニーズやレデネスとの整合性がうまくいかず、具体的な検討に至らなかった。全国的に栄養・食からの国際協力に対する大学生や大学院生等の関心が高まっている中、学外者も含めた現状把握を行い、テーマ (2) の研究計画の立て直しをすることになった。